

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台文学館		
2 指定管理者	公益財団法人仙台市市民文化事業団		
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 34,259人(前年度比 83.8%) 令和5年度 40,872人 令和4年度 44,836人 《事業》 ・施設の管理運営 ・特別展等の企画及び開催 ・文学資料の収集、保管		
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 203,622千円 (194,181千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円) 《収入》 ・ 使用料収入 3,428千円 (3,908千円) ・ その他収入 1,571千円 (1,071千円) ()は前年度決算額		
6 利用者の声	《実施状況》 ・ご意見箱を設置して、常時意見を受け付けている。 ・特別展や企画展ごとのアンケートを実施している。 ・施設利用者アンケートを実施している。		

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的や基本方針について、職員間で共通理解がなされており、利用者へ対しても適切に周知している。展示だけではなく、文学関係者・団体との共催事業や文学について深く学べる講座を多彩な内容で実施しており、文学館の設置目的に適った取り組みを積極的に行っている。	27/27
II 施設の運営管理体制	職員の業務実績や配置、仕様書や事業計画に即した業務の実施状況等は適切である。また、経理について、帳簿の整理・保管や市への報告等、適切になされており、個人情報等の情報管理についても、市の規定に準じて取り組んでいる。災害発生時の対応について、防災マニュアルに基づく訓練を適切に行うとともに、災害時の情報連絡体制・役割分担も明示されている。	31/31
III 施設・設備の維持管理	屋内の管理については、法定点検のほか、職員による自主点検を実施のうえ、老朽化等による不具合等について早期に発見し、随時市への報告がなされている。また、来館者の利用に不便が生じないよう、応急措置等についても速やかに実施しており、安全面や快適な利用環境の維持に対する意識が高い。屋外の管理については、台原森林公園に隣接し、樹木に囲まれた環境であることから、通路や近隣店舗等への影響が出ないよう、枯木の伐採等、適切な管理がなされている。	24/24
IV サービスの質の向上	定例ミーティングや研修、OJT等により接遇や必要な情報をしっかり身に付けており、来館者に対し、親切丁寧な対応がなされている。情報発信についても、ホームページのほか、X(旧:Twitter)を効果的に活用することにより、幅広い世代へ情報が行きわたるよう、周知広報に取り組んでいる。	28/28
V 施設固有の基準	質の高い展示、効果的な事業および確かな資料収集について、石川善助を取り上げた開館25周年記念特別展は、関連資料が一元的に集約される機会が少なかった資料を展示することで、地元でも認知度の低かった石川善助を広く市民に周知できる企画であり、文学的意義の大きい企画である。また、展示に関連して制作した図録は販売率が高く、魅力的な図録の制作として高く評価できるとともに、本図録では石川善助の目録や調査年報を掲載しており、これまで体系化されていなかった石川善助の功績を図録としてまとめたことは意義が大きく、価値・完成度の高い図録を制作できたといえる。 市民活動団体と連携した自主事業を行っている点について、自主事業「ライブ文学館」においては、地元の演劇関係者と連携しながら初代館長である井上ひさしの戯曲を上演したことで、文学的意義だけでなく、劇都仙台の発信や演劇文化の活性化につながる企画であったことは高く評価できる。 来館者数の増加と施設の活性化を図る取り組みについて、特別展「文豪、仙台ニ立ち寄り。」においては、主に若い世代に親しまれているゲームとタイアップしたことで、普段文学館を訪れたことがない、新しい層に来場してもらうことができ、県外からの来場者が約43%であるなど、全国に文学館をPRすることができたことから、施設の活性化につながった点は評価できる。引き続き、来館者数の増加へ向けた取り組みを継続的に実施していくことを期待したい。	51/48

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台市市民文化事業団）による自己評価》
施設の管理運営は、施設所管課と定期的な打ち合わせのほか、電話、メールなどで情報交換を行い、関係法令並びに協定書等に基づき適切に運営を行った。内部では毎朝の事務連絡、毎週水曜日に各委託業者の事務連絡及びその直後に職員全員で情報交換を行って連携して業務にあたることで、スムーズな市民サービスの提供を行った。施設管理料確定額は、203,622千円と昨年度を9,441千円ほど上回っている。主な理由としては、夏季の暑さにより電力消費量及びガス使用量が増大したために、光熱水費予算が超過したことなどが考えられる。また、開館から25年以上が過ぎ、経年劣化で不具合の生じた館内各設備については、適宜修繕を行った。令和8年度からの大規模改修工事を見据えて計画的に修繕を実施し、適時に対応していきたい。入館者は34,259人、観覧者数は12,172人だった。展示は、春は仙台出身の詩人・石川善助、夏は絵本作家・長野ヒデ子、秋はゲーム「文豪とアルケミスト」とタイアップした展示「文豪、仙台ニ立ち寄ル」、冬は在仙の写真家・大沼英樹の桜を中心とした写真展を開催した。春は、県内のみならず、北海道や愛知など全国から善助ファンが訪れ、展示図録も研究の基礎をなす資料として評価された。夏は市内の文庫の会など、34団体に協力いただき「お話し会」を実施。秋はタイアップしたゲーム「文豪とアルケミスト」の限定グッズの売れ行きも良く、雑入の売上額が例年の4倍強となっている。冬は、大沼英樹氏の写真展を開催したが、大沼氏来館時は多くの観覧者が来館し展示室と館内が賑わった。文学資料は購入578点、寄贈756点を受け入れた。普及啓発事業では、館長講座・ゼミナールなどに2,000人以上が参加。「ことばの祭典」は参加者数を制限せず、コロナ以前の当日吟行会形式で開催することができ、特に若い世代の参加が多かったことも特筆したい事項である。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
施設運営については、開館や施設貸出、帳簿等の整備保管、保守点検や設備修繕・清掃等を含む施設の維持管理、個人情報保護や情報セキュリティ・情報公開への対応、事故や災害時等の危機管理体制の構築、その他必要な書類の整備、諸手続き等、関係法令や協定書に基づき、いずれも適正に実施されている。施設は経年劣化が進み不具合も発生しているが、展示資料や利用者に影響がないよう適宜修繕が施されている。令和8年度から実施する大規模改修を見据えながらも、引き続き利用者が安心、安全に利用できるよう、適切な施設管理を進められたい。 特別展や企画展においては、1年間で詩人、絵本作家、写真家といった多彩な人物を取り上げたほか、若者に人気のゲームとのタイアップ企画など、幅の広い内容の展示を行っており、市民の文学への関心の向上に加え、広域からの集客にも寄与したことを評価したい。特に、特別展「文豪、仙台ニ立ち寄ル。」では、開館以来初めての試みであるスマートフォン用アプリゲームとのタイアップにより、文学館へ訪れたことのなかった若い世代が来館するきっかけとなり、アンケート回答者のうち20～30歳代の方が半数以上を占めた上、初めて文学館へ来た方は6割以上となった。文学館に来館される方の層を広げたことや、関連グッズの売り上げが好調であったことも、高く評価できる点である。また、開館25周年記念特別展「詩人・石川善助をたずねて～北方への道のり」では、仙台出身の詩人を改めて市民へ知っていただくことのできる、充実した展示内容となっていた。特別展にあわせて作成した図録は、これまでほとんど発行されていなかった石川善助に関する書籍として、資料的に大きな価値を持つものとなっており、郷土文学資料の調査研究結果として高く評価することができる。 引き続き、幅広い市民の方が文学に興味を持つことができるよう、魅力的な展示や関連イベントの開催を検討することに加え、大規模改修工事を機に、施設の認知度向上や魅力の発信等、工事完了後の再開館を見据えた様々な企画を実施し、将来的な来館者増に向けた取り組みを期待したい。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):文化観光局文化スポーツ部文化振興課